

こどもサポートOTチームへの相談の一例紹介

こどもサポートOTチームに頂いたご相談の一例を簡単に紹介させていただきます。報告書は、一人ひとりのお子さんの様子を踏まえ、さらに詳しく説明させていただいております。

【質問①】

周囲の状況や人の気持ちを読めずに、場面や状況にそぐわない発言を繰り返す子どもがいるのですが…

【質問②】

離席が目立ち、椅子をガタガタさせることが多い子どもです。休み時間には“戦いごっこ”が多く、女の子を泣かしてしまうこともあるのですが…

【質問③】

彫刻刀や色塗りが苦手で、文字も枠に収まらない子どもがいるのですが…



【提案①】

授業中には、本人が困ったと感じられたと思われる場面で、TVの話題が出てきていましたね。

こういった場面で、そのような発言が多いかを、まず考えてあげることが必要かもしれませんね。

まずは、きっかけになる事柄を見つけてあげましょう。また、状況や他者の前に『自分の』気持ちや置かれている状況への理解がどの程度できているかも考えてあげる必要があると思います。自分の状況を整理させてあげることも大切です。

【提案②】

自分が発言しているとき以外で、話をじっと聞かないといけなような場面で、動くことが多かったですね。

ぼんやりとする脳を目覚めさせようとして、そのような行動を取っているのかもしれないかもしれません。また、自分の動きや筋肉の曲げ伸ばしの感じ取りが曖昧なところもあるのかもしれない。

休み時間には、相撲や綱引きなど筋肉を沢山使う活動を積極的に取り組んでもいいと思います。

【提案③】

授業中は足を組み、背もたれにもたれかかっていることがほとんどでした。また、黒板の文字を読む際には、一文字一文字をゆっくりたどって読んでいましたね。筋肉の張りが弱く、体の軸がしっかりとしていないために、手の操作がうまくいかないようです。目の使い方も上手ではなく、目と手を合わせて使うことが苦手なようです。

立った姿勢の方が、体の軸が分かりやすくなります。立位でホワイトボードに文字を書くなどして、目と手の協調性を高めても良いかもしれません。目の動きは上下よりも左右に動かすほうが難しいので、板書の手本は、横書きよりも縦書きのほうがよさそうです。